

会長就任にあたって

社団法人 日本獣医師会

会長 山根 義久



会員や全国の構成獣医師の皆様におかれましては、ご壮健にてご活躍のこととご拝察申し上げます。

日頃より日本獣医師会の事業運営に際しましては、深いご理解とご支援をいただいておりますことに感謝申し上げます。また、各地域において社会貢献に取り組まれておられますことに対しましても敬意を表するとともに厚くお礼を申し上げます。

不肖、私、去る6月25日の日本獣医師会第66回通常総会における役員改選の結果、会長職3期目に就任することになりました。3期目は役員にとりましては、大きな節目でもあり、新規、継続事業を問わず、それなりの結果が求められるときだと思えます。また、前面に公益法人改革という大きな課題に対し積極的に推進するときでもあります。そのため会員の意向もあり、藏内勇夫、中川秀樹両副会長をはじめ、大森伸男専務理事も再任、さらに各地区及び職域理事ならびに監事の方々の多くも再任となりました。3期目はこれまでの総仕上げでもあり、真価を問われることとなります。まさに3期目は正念場でもあります。役員一丸となり意志統一をより強固にし、難局を乗り越えるべく努力を惜しまない所存です。どうか皆様の暖かいご理解とご支援をお願い申し上げます。

ここ1、2年は大きな台風の襲来もなく、また地震等の自然災害の猛威に見舞われることもなく経過してきましたことは、誠に喜ばしいことであります。しかし、アメリカ合衆国から端を発したサブプライム問題から始まった100年に一度といわれるほどの世界的大不況に見舞われました。

日本もその不況の波から逃れることはできなく、大きな影響を受けています。特に大きな問題は経済不況はもちろんのこと、国民生活に直結する食料品の高騰であります。ここ数年で小麦をはじめとした、とうもろこし、大豆、さらには米までが、3、4倍に値上がりしたことは、国際的にいずれの穀物も生産量が増え、逆に消費はそれほど増大していないことからすると、投資ファンドによる価格操作の何物でもないということでもあります。

日本は国民の食糧の多くを外国に依存するばかりか、家畜の飼料さえ、そのほとんどを外国より購入していることを考えるとき、当然その影響は計り知れないものがあります。我々、獣医界と大きく関連性のある畜産は壊滅的な影響が出るのではないかと危惧されているのは当然かもしれません。

国の根幹をなすものは“農業と教育”であります。しかし、その両者とも不安定な状況であり、獣医界

にもすでにその影響が現れつつあります。農業が廃れることはその多くを占める畜産が廃れることであり、産業動物医療も大きな影響を受けることになります。その結果は、小動物医療まで波及することは必至であります。また、獣医学教育の改善・充実が叫ばれてから長い年月を要していますが、その内容の充実はとてども進展しているとはいえません。その影響は、すでに国内外に生じている状況です。

しかし、この様な厳しい環境下でありながら獣医師会にとりまして慶事や明るい材料もいくつか見えてまいりました。その1つは会員の意識の向上、努力による学会年次大会の隆盛であります。昨年の高松における四国地区（香川県獣医師会担当）、さらに本年1月の盛岡での東北地区（岩手県獣医師会担当）の年次大会がいずれも悪条件を克服し、素晴らしい意義ある大会に終始しましたことは地域開催をご担当いただいた獣医師会をはじめ、関係各位のご努力の賜物であると大いに敬意を表する次第であります。また、日本獣医師会創立60周年記念式典が石破 茂農林水産大臣をはじめ、谷津義男獣医師問題議員連盟会長等多くのご来賓のご臨席のもと盛大に開催されましたことは、忘れ難い記念すべき慶事であります。その折に、長年のご功勞により大臣表彰をはじめ表彰をお受けになられた多くの先生方に敬意を表しますとともに心よりお喜び申し上げる次第です。

一方、明るい材料としましては、獣医学教育の改善・充実の長年にわたる獣医界の要望に対し、昨年の暮に文部科学省が「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」を立ち上げ、現在関係各位により慎重な審議が行われているところであります。大学再編を目標に実効ある具体的な指針が出ますことを大いに期待しているところです。

また、農林水産省におきましても10年振りに獣医事審議会の計画部会が開催され、「適正な獣医療の提供体制の整備」に関して4つのワーキンググループ（産業動物、小動物、公務員、民間・研究分野）を立ち上げ、実効ある具体的計画を検討中であります。

さらに、地区大会決議事項として、いつも強い要望のありました勤務獣医師の処遇改善につきましても、この厳しい経済状況でありながら、ようやく多くの地方自治体において、初任給調整手当の増額をはじめ採用、退職等の勤務条件の改善が進行中であります。これが進展しますといくらか獣医師の偏在問題も緩和されることが期待できます。

また、獣医師会におきまして長年の懸案事項でありました動物看護職の制度化に向けて、一般社団法人日本動物看護職協会が本年5月に設立されましたことは、動物医療におけるパラメディカル部門の立ち上げの第1号であり、今後の動物医療における発展が大いに期待されるところであります。今後はさらに国家資格に向けての努力が必要不可欠と思います。

さらに、獣医師会にとりまして避けて通れないのが公益法人改革であります。現状では未だ不透明な部分がありますが、何としましては地方会、日本獣医師会、いずれも挙って公益法人の認可に向けて最大の努力をと思っております。どうか会員の皆様におかれましては最大の努力を傾注していただくことをお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年も10月3日（土）に3回目の“動物感謝デー”を開催する運びであります。地方会におかれましても、地域の特色を活かしてイベントに参加していただきますことをお願いし就任の挨拶とさせていただきます。